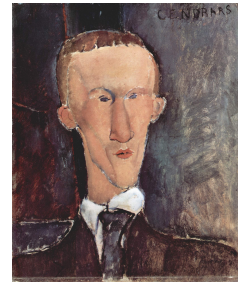


4月14日 フランス現代詩読書会：ブーレーズ・サンドラール（Blaise Cendrars）

本名フレデリック・ルイ・ソゼール（Frédéric Louis Sauser）。1887年、フランス国境に近いスイスのラ・ショード・フォンに生まれる。17歳で学業を放棄して以来、世界各地を放浪し、冒険を重ねながら創作を行った。シベリアでは密輸宝石商となり、ニューヨークではルンペンとなり、カナダではトラックの運転手、イギリスでは当時若手だったチャーリー・チャップリンと共にミュージック・ホールで軽業師を営んだ。南米では農園を経営し、巨万の富を築くも、たちまち破産してしまう。アフリカで猟師として、像や鰐を狩っていた時代もあったという。その破天荒な冒険譚が事



実なのかフィクションなのかを知る術は現代では残されていないが、外人部隊兵となって失ってしまった右腕と、彼の書斎に眠る世界各地から集めた2万冊の古文書や貴重書からは、彼の危険で壮大な人生の足跡の一端を伺い知ることができるだろう。

サンドラールが文学と出会うのは、1912年4月初旬の日曜日である。サンドラールは1911年12月11日、ニューヨーク港に着き、この町でおおよそ4ヶ月ほど暮らした。空腹と疲労に悩まされながらたどり着いた教会でハイドンの『天地創造』を聞いた夜、詩の大波が胸中に押し寄せてきて、一気に長編詩を書き上げたという。それがあのアポリネールにも多大な影響を与えたという『ニューヨークの復活祭』であった。その後、パリを拠点として『シベリア鉄道とフランス少女ジャンヌの散文』、『19の軽快な詩集』などを発表。『全世界』に収められた詩集では、様々な視点からの多様なイメージを並列する「同時詩」の手法が見受けられ、後のキュビズムの登場を、そして唐突なイメージの組み合わせはシュルレアリスムを予告している。また、いち早く黒人芸術への理解を示すプリミティヴィストでもあった。

ブーレーズ・サンドラールというペンネームは、braise（熾火）、cendre（灰）、art（芸術）をつなぎ合わせたものとされる。パリを拠点としてからは、アポリネールはもちろん、コクトー、サティ、モディリアニ、ジャコブなど多くの芸術家や作家との交流を深めていくことになる。第一次世界大戦後は、彼の関心は映画に向けられる。映画のショットを詩で表現した『シネマのABC』は日本でも飯島正による翻訳によって、シネ・ポエムの流行を用意した。ところで、飯島正が昭和4年に翻訳した『サンドラルス抄』には、著作目録が付されているが、そこには「現在準備中の著書が33冊ある」と書かれている。サンドラールが占星術の信者であり、数字の魔力を信じていたことは、この33という神秘的な数字が彼の全著作の目録に添えられていることから明らかである。

主要著作

La Guerre au Luxembourg, Dan. Niestlé, 1916.

Du Monde Entier (Les Pâques À New-York, La Prose du Transsibérien et de la Petite Jeanne de France, Le Panama ou les Aventures de mes sept Oncles, dans), Éditions de la Nouvelle Revue Française, 1919.

Dix-Neuf poèmes élastiques, avec un portrait de l'auteur par Modigliani, Au Sans Pareil, 1919.

Anthologie nègre, La Sirène, 1921.

ABC de cinéma, Les Écrivains réunis, série » Tout autour d'aujourd'hui », t.III, 1926.

La Main coupée, Denoël, 1946.

歪められたソネ（1923）

おおポエティック

ジャン・コクトーに

われらはいかなる罪さえ

そなたの^{そんめい}尊名下で

^{おか}犯しはせぬ！

昔々、まるっこい口で話す詩を書くひとたちがおりました

ソーセージの^{まど}円か 詩人の美しき目 煙ッテ

オフィーリアの髪 もしくは婦人に香が染み入ッテ

オルフェ

あなたはおくびが出る あなたが書いた韻文詩をかじる歯であるような鋭利なエ

内で韻を^{そうさく}搜索するための被り笠にある丸ども

口 ぽっかり開けッテ

あなたは燻るみたいですが あなたが燻製と繰り返すのはなぜ

それはとても簡単 もしくは とても難しく

ポーンが7つと女神たちは ヴィルギュルのためにある

おお ポエ ジー

ああ！おお！

カカオ

あなたは路面電車を使うみたいですが あなたがトラムウェと書かないのはなぜ

見よ しかめ面 書かれた^も文字は良きフランセ

イギリス人ピエロは両脚でしかめ面する

愛のラレタンに見るように

^{しつと}嫉妬する精神 ビラにはサーカス そして ヒトヘビがABC 順に並ぶポーズ

彼らにほぐさなければ

O

ポエジー

音
S.

Z

h

わらべ
童

11 月 16 日

黒人詩（1922）

黒い大陸

アフリカ

ストラボン^{*1}はこの大陸をあまりに軽んじていた

一般的な用途の護符^{グリグリ}

男系の血統が数えられあらゆる労働がなされるのは女性によってである

一人の父がある日自分の息子売り渡そうと思いついたが、息子はこれを父を売ることによって回避した。

この民族は篡奪に夢中である

この民族の目を驚かすものはみな彼らの所有欲を掻き立てる

あらゆるものを大きな足の親指で掴みそして膝を曲げてあらゆるものを腰巻の下に隠す

彼らは権威ある酋長達に付き従いその酋長達は契りを交わす処女達全員の初夜を掟のなかで数え上げる

未亡人達の夜は気につけない、

と昔の作家は書いた

偶然が旅人たちを導いた摩訶不思議なサン・ボランディオン島^{*2}

その島は時々見えたり見えなくなったりするそうだ。

マディラ^{*3}の大森林は7年燃えた。

マディンゴ族^{*4}のマンボ・ジャンボ^{*5}な偶像

コート・ドール
黄金海岸

ギナ^{*6}の総督は黒人達と口論する

砲弾が不足しているので彼は自分の財産で大砲を補充する

トット・バブ
子犬・胃袋^{*7}

彼らによそ者を許容させる好意しかない

この海岸とヨーロッパ人の放蕩の上に成り立つ貿易はおそらく最も悪意に満ちた新たな人種を獲得する

彼らヨーロッパ人は9種類に分けられる。

サカトラ、グリフ、マラブー、ミュラートル、キャルトロン、メティ、マムルーク、キャルトロネ、サン・メレ

家庭の偶像にささげられたボスムは幸せである^{*8}

^{*1} ストラボン（BC64 頃 - AD21 頃）ローマ時代のギリシア系地理学者・歴史学者。地中海沿岸の各地を旅行し、その知見と資料を地理書「ゲオグラフィカ」にまとめた。

^{*2} 情報なし。造語か？

^{*3} マディラとも。モロッコ西岸部に浮かぶポルトガル領の島。マディラは森を意味する。15 世紀にエンリケ航海王子がこの島を発見した直後、島を覆っていた森は全て焼かれ、畑となった。その肥沃な土地で作られたワインが名産となっている。

^{*4} マンディンカとも。13 世紀初頭アフリカ西部ニジェール川流域にマリ帝国を切り開いた部族。アポリネールやジョセフ・ブリュメルらがこの部族の彫刻をよく収集していた。

^{*5} （アフリカ西部の黒人部落の守護神 Mumbo Jumbo から）不可解な儀式や、何を言っているかわからない言葉を意味する

^{*6} ポルトガル領ギニアのことか？

^{*7} toto はポルトガル語で「子犬、愚かな人、糞便」を意味する。papo は「胃袋、尊大、仕立ての悪い服のふくらみ」などを意味する。

^{*8} One of the two chief deities of the negroes on the Gold Coast, the other being Demonio. Bossum, the principle of good, is said to be white; and Demonio, the principle of evil, black. (<http://www.infoplease.com/dictionary/brewers/bossum.html>)

大いなる^{フェティッシュ}呪物

I

硬い木の脈石
胎児の腕ふたつ
男がその腹を引き裂く
直立する手足を崇拜する

II

お前は誰を脅迫する
死に瀕したお前は
挑戦的な態度で
かろうじて安定を保って
まさに増大の限度を越えて

III

木の結び目
陰茎亀頭の形をした頭
冷徹で反抗的な
装飾を排した顔
中性的だが臆面もなく満足げな若き神

IV

a 欲求はお前の顎を噛んだ
貪欲がお前をたぶらかす
お前は立ち上がる
お前の顔に欠けているものが
お前を幾何学にする
樹形にする
若々しくする

V

ここに男と女がいる
どちらも醜く、どちらも全裸
男は女より痩せているが力強い
腹に置かれた手と貯金箱のように大きな口
.
.
.

X

私が最も愛する女がここにいる
漏斗型の口の周りに二つの尖ったしわ
青ざめた額
こめかみの上は白く
そして銅のように磨かれた眼差し

参考文献

Christian Bök, *Eunoia*, Coach House Books, 2001.

Blaise Cendrars, *Poésies complètes*, Denoël, 1944.

John Pinkerton, *Géographie moderne*, Dentu, 1804.

ブーレーズ・サンドラール『世界の果てまで連れていって』、生田耕作訳、福武書店、1988 年。

『フランス文学小事典』、岩根久他編、朝日出版社、2007 年。

大平具彦『20 世紀アヴァンギャルドと文明の転換』、人文書院、2009 年。

大辻都「「混血」とは誰か? : サン＝ドマングの法律家モロー・ド・サン＝メリーの「科学的」ディスクール」、『国際交流学部紀要』、

フェリス女学院大学、7号、2005年、87–116頁。

北澤裕「フェティッシュと仮面 (1) 視覚の文化」、『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』、早稲田大学大学院教育学研究科、23号、2012年、15–34頁。

西村靖敬「20世紀アヴァンギャルド文学・芸術におけるプリミティヴィズム - ブレーズ・サンドラールを中心に」、『千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書』、千葉大学大学院人文社会科学研究科、191号、2009年、3–17頁。

平林和幸「詩人ブレーズ・サンドラールの誕生 (II)」、『武蔵大学人文学会雑誌』、武蔵大学人文学会、28号、1997年、191–223頁。

平林和幸「詩人ブレーズ・サンドラールの誕生 (III)」、『武蔵大学人文学会雑誌』、武蔵大学人文学会、31号、2000年、115–139頁。

補遺 1 : Christian Bök : « Chapter O »

CHAPTER O

for Yoko Ono

Loops on bold fonts now form lots of words for books.
Books form cocoons of comfort – tombs to hold book-
worms. Profs from Oxford show frosh who do post-
docs how to gloss works of Wordsworth. Dons who
work for proctors or provosts do not fob off school to
work on crosswords, nor do dons go off to dorm
rooms to loll on cots. Dons go crosstown to look for
bookshops known to stock lots of top-notch goods:
cookbooks, workbooks – room on room of how-to
books for jocks (how to jog, how to box), books on
pro sports: golf or polo. Old colophons on school-
books from schoolrooms sport two sorts of logo: ob-
long whorls, rococo scrolls – both on worn morocco.

補遺 2：ニューヨークの復活祭

※訳は平林和幸の翻訳を使用した。

巨木よ、梢をたれ、内臓の緊張を弛めよ
そして生来の厳しさが弱まり、柔らかいその幹をもて
至高の王の四肢を拡げるために

フォルチュナ『パンジェ・リングァ』

巨木よ、おまえの梢をたれ、内臓の緊張を少し弛めよ
そしておまえの生来の厳しさが弱まり、
至高の王の四肢を欺くも手荒に引き裂かないように

レミ・ド・グールモン『神秘的ラテン人』

主よ、今日はあなたの御名の日です、
僕は古い本の中であなたの受難と
あなたの苦悶とあなたの努力とあなたの優しい御言葉を読みました。
ゆっくりと単調な御言葉はその本の中で泣いています。

古き時代の修道士が僕にあなたの死について語っています。
膝の上に置いた祈祷書に

彼は金文字であなたの話を聞いていました。
彼はあなたから導かれつつ敬虔に勤めていました。

白い衣に身を包み、祭壇の陰に座って、
彼は月曜日から日曜日まで勤めていました。

時は彼の小部屋の入り口で止まっていました。
彼はあなたの肖像に身をかがめ、時の経つのも忘れていました。

鐘楼で、晩鐘が単調に鳴り響くとき、
修道院の門を大きく叩くのが

彼の愛する人か、主よ、あなたの愛する人か
あるいはあなたの父なのか、善良な修道士にはわかりません。

僕はこの善良な修道士のように、今宵、不安なのです。
隣の部屋で、悲しげな無言の存在が

ドアの陰で待っています、僕が彼を呼ぶのを待っているのです。
それはあなたであり、創造主であり、僕であり—神であります。

僕はあなたを知りませんでした、あの頃も、—今も。
僕は子供の頃一度もお祈りをしたことがありませんでした。

しかし今宵は恐れ戦きつつあなたのことを考えています。
僕の魂はあなたの十字架の足許にひれ伏す喪服姿の寡婦です。

僕の魂は黒衣の寡婦です、—カリエール描くところの
涙も涸れ果て望みも尽きたあなたの母です。

僕は美術館に吊されたすべてのキリスト像を知っています。
しかし今宵、主よ、あなたは僕のほうに歩いてきます。

背を曲げ、心は皺だらけで、精神は熱に浮かされて、
僕は太股で下町の方へ降りていきます。
ぱっくり開いたあなたの脇腹は巨大な太陽のようです。
そしてあなたの手はあたり一面輝きで煌めいています。

家々の窓ガラスは血だらけです、
そして裏窓の女たちは血の花、
萎れた奇妙な悪の花、蘭の花、
あなたの三つの傷口の下に開いたひっくり帰った聖杯のようです。
あなたの集めた血を、彼女たちは一度も飲んだことはありません。
彼女たちは唇に紅をさし、尻にはレース飾りを付けています。
受難の花は大蠟燭のように白いのです。
聖処女さまの御園に咲く最も甘い花なのです。

あなたの^{こうべ}頭が、主よ、あなたの心臓の上に垂れ下がったのは、
この時刻、9 時頃です。

僕は大海のほとりに座って、
ドイツの賛美歌を想い出しています。

それはとても心にしみる、飾り気のない、洗練された言葉で、
苦悶の中のあなたの顔の美しさを唱っています。

シエナの教会の地下埋葬所で、
僕はカーテンに覆われた壁に同じ顔を見ました。

そしてブリエ・ウラディ斯拉ツ僧庵では、
それは聖遺物匣の中に黄金のレリーフとなっています。

眼にはとろんと濁った丸い宝石が填めてあり、
百姓たちは跪いてそのあなたの眼に口づけします。

ヴェロニカの布にそれははっきりと刻み込まれています。
だから聖女ヴェロニカはあなたの聖女になられたのです。

それは国々をさすらう最良の聖遺物であり、
病める人も邪な人も皆癒します。

それはさらに他にも幾千もの奇跡を起こします。

しかし僕はその光景に一度も居合わせたことはありません。

あなたの美しさの輝きを見るためには、

主よ、恐らく僕には信仰と善意が足りないのです。

それでも主よ、緑柱石に彫られたあなたの御姿を見るために、

僕は危険な旅をしました。

主よ、僕の心を締め付ける苦悶の仮面が

頬杖をついた僕の顔から両の手に落ちてしまいますように。

主よ、激しい絶望の唾が

僕の唇からそこにおしあてられた両の手に付いてしまいませんように。

僕は悲しく止んでいます。恐らくあなたのために、

恐らく他のもののために。恐らくあなたのために。

主よ、あなたは多くの貧しい人たちのために犠牲となられた。彼らは

ここでは家畜のように救済院の中に閉じ込められ、詰め込められています。

巨大な黒い船が水平線からやってきて、

そして栈橋の上に彼らを乱雑に降ろします。

そこにはイタリア人、ギリシア人、スペイン人、

ロシア人、ブルガリア人、ペルシア人、モンゴル人がいます。

彼らは子午線を飛び越えるサーカスの動物たちです。

まるで犬たちのように、彼らには一切れの野禽の肉が投げ与えられます。

このひどい餌が彼らの幸せなのです。

主よ、苦悩の民に憐れみを垂れたまえ。

主よ ユダヤ人街では賤しいユダヤ人の群がひしめいています。

彼らは皆んなポーランドからの逃亡者なのです。

彼らがあなたを訴えたことを、僕はよく知っています。

しかし彼らはそれほど悪くはありません、請け合います。

彼らは真鍮のランプの灯る店の中で、

古着や、武器や、本を売っています。

レンブラントは古着をまとった彼らを描くのが大変好きでした。

僕は、今宵、顕微鏡を値切りました。

ああ！主よ、復活祭のあとにはもうあなたはいらっしゃらないでしょう！

主よ、バラックのユダヤ人に憐れみを垂れたまえ。

主よ、あなたに付き添ってゴルゴダの丘に行った卑しい女たちは、

身を隠しています。いかがわしい店の奥の、不潔極まるソファのうえで、

彼女たちは男たちのわずかばかりの金で汚されています。

犬どもに骨までしゃぶりつくされ、そしてラム酒の中に

彼女たちは罪の意識すらない悪徳を隠しているのです、剥落する悪徳を。

主よ、こうした女たちの一人に声をかけられると、僕は萎えてしまうのです。

僕は娼婦たちを愛するためにあなたになりたいのです。

主よ、娼婦たちに憐れみを垂れたまえ。

主よ、僕は善良な泥棒や

浮浪者や、乞食や、故買屋たちの中にいます。

僕はあなたとともに十字架に架けられた二人の強盗のことを考えています。

あなたが彼らの不幸に微笑まれたことを僕は知っています。

主よ、ある者は端を結んだロープがあればよいのと思っていた。

しかしロープもただではないのです、20 スーもするのです。

この年老いた悪党は哲学者のように理屈を捏ねていました。

僕は彼がもっと早く楽園に行けるように阿片をくれてやりました。

僕は街の音楽家、目の見えないヴァイオリン弾きや、

手回しオルガンを弾く片手の男、

造花の薔薇で飾った麦藁帽子をかぶった歌姫のことを考えています。

永遠に歌い続けるのはこの人たちだということを僕は知っています。

主よ、彼らに施しを与えたまえ、ガス灯のほのかな光ではなく

主よ、彼らに施しを与えたまえ、この世のわずかなお金を

主よ、あなたが息を引き取られたとき、聖所の垂れ幕が裂けました。

垂れ幕のうしろに見たもののことを、誰も語りませんでした。

夜の通りはまるで黄金と血と、

ライトと芥^{あくた}に満ちた裂け目のようです。

あなたが鞭で寺院から追い払ってしまった者たちが

一握りの悪事で 通行人をむち打っています。

あの時聖なる地から消えた星は、

見世物小屋の壁に掛かった裸電球に灯っています。

主よ、イルミネーションで飾られた銀行は金庫のようです、

そこにはあなたの死体から流れ出た聖なる血が凝固しています。

通りは人影がなくなり、一段と暗くなりました。

僕は酔っ払いのように歩道をよろよろと歩いています。

僕は恐ろしいのです、家々が投げかける長い影法師が。

僕は恐ろしいのです。誰かが僕のあとをつけてきます。僕には振り返る勇気などありません。

びっこを引いた足音がだんだん近づいてきます。

僕は恐ろしいのです。眩暈がします。そしてわざと立ち止まったのです。

身の毛がよだつほど恐ろしい奴が、短刀のように鋭い

視線で僕に一瞥^{わる}をくれると、その悪は通り過ぎていきました。

主よ、あなたが王でなくなられてから何も変わっていません。

邪神はあなたの十字架で松葉杖を作りました。